

ナバリスト 30

二本松 綾乃 さん

名張市立病院 脳神経外科 医長

にほんまつ あやの ●四日市市出身。奈良県立医科大学附属病院、岡波総合病院、市立東大阪医療センターなどで勤務。令和7年5月、厚生労働省が認定する「日本DMAT 隊員養成研修」を修了。救急対応・手術など多忙な日々を送る中、院内ではランニング部・テニス部を自ら結成し、職員と一緒にリフレッシュしている。

患者さんの人生に
寄り添いたい！



チームで患者を支える多職種の病院スタッフ



給水活動や物資のニーズ把握、福祉施設での健康状態の確認など、熊本県八代市の災害対策本部から指示を受けて、7日間、活動を行った。



医師も看護師も家族も 患者を支えるワンチーム

三重大医学部5年生の時、地域医療を学ぶカリキュラムで名張市立病院を訪れ、1カ月間実習をしました。職種に関係なく、みんなで患者さんを支える一体感にひかれ、研修医として勤務することを決意。先輩医師との距離も近く、患者さんやスタッフの話にしっかり耳を傾ける指導医の姿を見て、医師としての考え方の土台を育ててもらったと思っています。

今年7月の熊本地震では、DMATの一員として初めて被災地へ。すぐに出発できるよう、発災翌日には、必要な物資の準備を整えました。現地では緊張の連続でしたが、能登などへの派遣経験のある隊員たちに支えてもらいながら、給水活動や相談業務などに励みました。名張へ戻り、市立病院の建物が見えた時は、「無事に帰って来られた！」と、家に帰ったように心からほっとしたんです。いつも通り患者さんを診て、手術をして、回復まで見守れる日常は、決して当たり前ではないと気付かされました。

脳の病気は、突然歩けなくなったり、まひが残ったり、その後の人生に大きく影響することもある。患者さんが何を大切に、どう生きたいのかを知って応援したい。だからこそ、患者さんを一番近くで支えるご家族も、チーム医療の大切な一員だと思っています。また、看護師やリハビリ職、栄養士などと回診し、より適切な対応ができるようみんなで意見を出し合うようにしました。わたし一人では限界があります。それぞれの力を発揮できる雰囲気をつくりながら、これからもワンチームで患者さんひとりとひとりの人生に寄り添っていききたいですね。

編集後記

忙しくて市民説明会に行けなかった人も多いと思います。市HPで、市からどんな説明がなされたのか、参加された皆さんからどんな意見があったのかなどを掲載しています。ぜひご覧ください(たか) ラーメン大好き人間の気持ちを通じたのか(8月号の編集後記参照)、一蘭イベントの取材で、おこぼれをいただけることに！多くの参加もあり、おいしい楽しい時間となりました(くま)

「名張秋祭りに行ったこともないんです」と話すところから始まった取材。皆さんあたたかく歴史や思いをお話いただきました。今年は私も参加しようと思います！体力付けとかな(はな)

ゲームを見るのが好きな私は、スポーツの「eスポーツ体験会」に行きたいなと思いました。プロゲームの凄いプレイを実況付きで生で見られるなんて！今から楽しみです(おふじ)



名張のひと・活動

